

## 授業科目 聴覚系構造・機能・病態

【担当教員名】 佐藤 克郎		対象学年	2	対象学科	言語
		開講時期	前期 b	必修選択	必修
		単位数	1	時間数	15
【カリキュラムポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	◎	○	○		
【概要・一般目標：G10】 聴覚系の構造・機能・病態について聴器の微細構造と巧みな聴覚機構、そしてその障害としての難聴をめぐって概説する。					
【学習目標・行動目標：SBO】 講義内容を整理し理解して、きちんと説明ができるようにまとめる。					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	聴器の構造：外耳、中耳				構造 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義
2	"：内耳、聴覚と聴中枢				
3	聴覚器の機能：集音機構、伝音機構				
4	"：感音機構				
5	感音器官の病態：伝音性障害（伝音難聴）				
6	"：感音性障害（感音難聴）				
7	聴覚器の病態：聴覚路の障害（後迷路性難聴）				
8	"：中枢性聴覚障害（皮質性難聴）				
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		言語聴覚士のための講義ノート 聴覚系耳科学 ―聴覚系 の構造・機能・病態―	中野雄一	考古堂書店	2007・2,000円
参考書					
その他の資料					
【評価方法】 出席・学習状況と定期試験から評価する。			【履修上の留意点】 学習ノートは学問体系を知る上でも重要。作成には工夫が必要。		